

多角的アプローチで きめ細かく確かな学びを ～教育の時間は私たちが刻む～



導入時期・内容

- ▶ 4/13(月) ●野球部対象にZoomミーティング実施
●個々の自主練習の様子を確認
→自主練習動画にアドバイスを書き込み、限定公開
- ▶ 4/14(火) ●全教員対象Zoom研修及び接続
- ▶ 4/18(土) ●Web会議実施(在宅勤務時)
- ▶ 4/27(月) ●主要5教科15本+MD(*)1本の計16本の動画を配信
- ▶ 4/29(祝) ●全クラスでZoomによるオンラインHRを実験的に実施
(時間設定は午前9時)
- ▶ 5/2(土) ●Zoomで授業実施。同時にビデオ撮影(翌日、YouTubeにアップ)
副教科(体育・音楽・美術・家庭科)の動画配信実施
- ▶ 5/18(月) ●Zoom利用のMD(*)実施及び5教科動画配信(2回目)
- ▶ 5/27(水) ●副教科(体育・音楽・美術・家庭科)の動画配信(2回目)
- ▶ 6/17(水) ●MD(*)実動画配信
※MD—モーニングデポーション(聖話)

オンライン授業の特長

双方向HR、リアルタイム型授業、YouTube動画配信
各家庭の状況(端末やネットワーク状況など)に合わせた、
さまざまな方面からのアプローチ

- ・リアルタイム型授業+動画配信
→郵送での課題のやり取り+電話での質疑応答。
- ・FAXで学習面や生活面をサポート。

工夫した点

- [全体] オンライン授業に必要なワークシートを事前に郵送し、授業をスムーズに展開。
- ・国語 音読や文法の説明など、1人ではできないことを中心に配信。
 - ・社会 パワーポイントや実例を効果的に使い、ユーモアを交えた授業を実施。
 - ・数学 思考力が問われる演習課題に対して、生徒の理解を助ける解説動画を配信。
 - ・理科 繰り返し見られる媒体の特性を生かし、実験・観察を中心に実施。
 - ・英語 正しい発音を習得させるため、ネイティブ教諭の動画を配信。

効果

- ・経験値の高い教員のガイドライン動画研修で、教員間の意識の統一が図れた。
- ・スマートフォンの小さい画面でも見やすく、かつ分かりやすくなるように板書の要点や手元を大きく映すなど、撮影技術が向上した。
- ・Zoom授業時の板書+パワーポイント活用や後日の動画配信で学習効果がアップした。
- ・生徒が効率的に理解できる動画を試行錯誤しながら作成したことにより、教員のICTスキルが向上した。

生徒からの声

- ・YouTubeの配信で、分からない所を何度も繰り返し見られたことに感謝している。特に国語の朗読はわかりやすく、おかげで内容の定着が図れた。
- ・新クラスになったが、ほとんどクラスメイトに会えなかったため、友達や先生の顔が見られてよかった。
- ・休校中乱れがちだった生活が、HRの存在で改善できて規則正しい生活ができた。
- ・オンライン授業で発言できたことをきっかけに、通常授業でも発言ができるようになった。

今後の展開と展望

通常通りの対面授業を行いながら TV モニターや iPad 等の ICT 機器を使用したオンライン学習を積極的に展開し、ハイブリッド型教育をめざしていく。生徒が興味関心を持ち、自発的な学習に取り組むことはもちろん、教員が生徒一人ひとりの状況を把握することで、個々の能力を大きく伸ばさせることができる。



家庭科の授業をオンライン配信



ネイティブ教員による授業



Zoomによる健康確認

ハイブリット学習で 生きる力を育む ～未来へのオンライン～

導入時期・内容

- ▶ 4/6(月) ●アンケートメールにて児童の健康観察実施
- ▶ 4/13(月) ●遠隔授業に関する環境調査アンケート実施
- ▶ 4/23(木) ●課題引き取りのタイミングに合わせて、HPに学習コンテンツのページを掲載
●Zoomによる朝の会実施
下野新聞の取材を受ける(24日記事掲載)
- ▶ 4/24(金) ●YouTubeによる学習動画配信を開始
(初日に11本。5月末までに107本配信)
- ▶ 5/7(木) ●全学年1回目のZoom朝の会実施終了
- ▶ 5/11(月) ●2回目のZoom朝の会開始
- ▶ 5/13(水) ●ロイロノートスクール、Classtingの運用開始
- ▶ 6/20(土) ●オンラインの学校説明動画を配信



オンライン授業の特長

Zoom、ロイロノート、YouTube、Classting、アンケートメール、小学部HPなどを活用した授業

休校中、不安を抱えている保護者や児童に「つながっている」という安心感を与えることを課題に、どこよりも早くオンライン教育を実施。個別指導にも対応。

工夫した点

- ・オンデマンド型(YouTube 動画やロイロノートなど)の学習を基本とし、必要に応じて同時双方向型(Zoomなど)の学習を組み合わせて実施。
- ・学習支援ツールを使用して課題の提示や成果を蓄積し、休校期間中も学習を継続。
- ・学校生活時間に合わせてZoomによる朝の会を実施。(授業の要素も加え、学校とのつながりを深める取り組み)

効果

- ・動画の編集や配信、授業支援ツールの活用を通して、教員のICTスキルが向上した。
- ・オンラインで朝の会や授業を実現するためのシステムづくりで教員間の一体感が生まれた。

保護者からの声

- ・子どもたちも、先生やお友達の顔を見られて喜んでいました。
- ・休校中の生活にメリハリがついた。子どもが飽きないようさまざまな工夫が施され、保護者も一緒に楽しめた。
- ・朝の会は、さびし気に「学校に行きたい」と漏らしていた子どもの心に大きな潤いをもたらしてくれた。
- ・先生方の取り組みに感謝する。今後も継続してほしい。

今後の展開と展望

学校再開を果たした今だからこそ、今後に向けての明確なビジョンを打ち出す必要性に迫られていることを自覚しなければならない。ハイブリッド学習を展開しつつ、①家庭において学習計画を立てること②学校という集団の中で経験を積み重ねなければならないことの双方を身に付けさせ、自主性や創造力、表現力を育成していきたい。



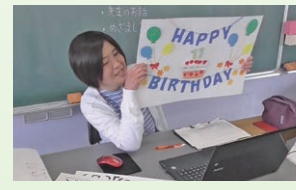
朝の会で久々の再会



ロイロノートで課題提出



双方向で児童と交流



Zoom朝の会で誕生会実施